

<先週の説教から>

『黙示録④一怒りのぶどう』

ヨエル書 4:13~15 ヨハネの黙示録 14:14~20

黙示録を続けて読んできましたが、特にこの書が数・数字にこだわりを持って書かれていることは分かって頂けたかと思います。この14章も最初に救われる「十四万四千人」が登場していますが、この数は聖書の完全数である $12 \times 12 \times 1000$ で、一人の落ちもなく完全にということでしょう。そして今日の箇所は、もうひとつ別の、神様の完全を表す「7」が用いられます。

まず6節から13節ではその題にもありますように<三人の天使>が登場して、地上に住むあらゆる国民、種族に対して言葉を語り掛けました。そして今日の箇所の15節から20節にも全く別の<三人の天使>が現れ、彼らが「地上の穀物」や「ぶどうの房」を実際に刈り入れる行為を務めます。合計6人の天使が出て来ます。ただ、これでは「7」にはなりません。実はその真ん中の14節に「見よ、白い雲が現れて、人の子のような方」が登場しているのです。まさにこの方こそ《イエス様》に他なりません。このイエス様を中心にして、最初の三人の天使が裁きを語り（＝告知の天使）、後半の三人の天使が実際に裁きを実行します（＝裁きの天使）。そして、彼らの中心にいてすべてを取り仕切られる方こそイエス様であると。この7人こそ神様の完全、まったく神のみ業の実行者を指すのです。

更にここで、イエス様のことを「人の子」と呼ばれている点にも意味があります（他の箇所では「小羊」と呼ばれています）。これは旧約のダニエル書やエゼキエル書等で用いられる《人の子＝ベン・アダム》のことであり、本来は、罪を犯した人間の子という意味です。ただ、このように罪ある「人の子＝人間の子」が天にいるということ自体が本当はありえないことなのです。罪あるままで、聖なる神様がおられる「天」へと入ることは許されません。しかし、まさにそのことが起こったのだと。それを可能にした「人の子」がイエス様であるのだと言われているのです。それが、主の十字架と復活と昇天の結果だと。そして、イエス様が天にいてくださるからこそ、私たち人の子もイエス様によって天へと招かれることが可能になるということを表しているのです。旧約聖書のダニエル書では、このような私たちと同じ「人の子」が「天の雲に乗って」天へと進み行く者となるのが、私たちにとって真の《救い主》であると預言されていました。そして「神の子」として再び、地上へと降りて来られること（＝再臨）になると預言

しているのがまさにこのヨハネの黙示録なのです！

そして、そのイエス様が手に持っておられるのが「鋭い鎌（かま）」であるとここで示されています。

これは実った穀物を刈り入れる時に使う農機具で、大きな三日月状の刃と長い柄のついたものですが、現代の私たちのイメージでは、これは悪魔やサタンが持っている武器とされています。でも、ここではイエス様が持っておられるのですから、このイエス様の「鎌」は祝福の刈り入れを行う鎌なのです。最後の審判の時に、御心に適う者たちをちゃんと取り分け、天の倉へと集められるために用いられる、喜びの刈り入れを表します。まさに、この章の13節「今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。」との言葉の通り、私たちひとり一人に対して、イエス様ご自身から『信仰を持って生き抜いて来たね。よくやった！』と褒めてもらえた上で『さあ、約束しておいた平安の中へ入りなさい』と招いて頂ける時、それがこの収穫の時なのです。

反対に、裁きのための刈り入れを行う「鎌」が次の17節以下に登場して来ます。「また、別の天使が天にある神殿から出て来たが、この天使も手に鋭い鎌を持っていた」のです。そして「その鋭い鎌を入れて、地上のぶどうの房を取り入れよ」との命令が下されます。ここにぶどうの房とありますから、これも良い収穫であるかのように思っていますが、そうではなく8節にある「怒りを招くみだらな行いのぶどう酒」を作るぶどうの房であり、終末の時に滅びを免れない者達のことです。そして更に19節で「地上のぶどうを取り入れ、これを神の怒りの大きな搾り桶に投げ入れた。搾り桶は、都の外で踏まれた。すると血が搾り桶から流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンにわたって広がった。」のでした。凄まじい光景ですが、神様の裁きの過酷さとそれにより、大量の死者が出ることを語っています。ここでも16000という数字が出ています。これも地の生き物を表す $4 \times 4 = 16$ と人間の完全数である $10 \times 10 = 100$ を掛けた数であり、裁かれる者はすべて一人も余すことなく裁かれることを表しています。あまりにも厳しい、厳粛に受け取るべき預言です。

ただ、ここで「都の外で踏まれた」とありますが、私たちはこの言葉からイエス様の十字架を思い浮かべるべきでしょう。ゴルゴダの丘はエルサレムの郊外にありました。そこでイエス様がすべての人の救いのために自ら《血を流された》のでした。私たちが裁かれまいようにと、一人でも多く救われるように主は願ってくださるのです。

No. 62 - 7

週報

2020年度 教会標語

「生活の真ん中に礼拝する心を！」

2021年 2月14日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>